

A5

Fujitsu Experience Day 2026

FUJITSU

富士通の最新モダナイゼーション戦略

富士通株式会社
執行役員副社長 COO（サービスデリバリー）
島津 めぐみ

2026年9月10日

© 2026 Fujitsu Limited

- 富士通のモダナイゼーションへの取り組み
- 富士通が提供するAIドリブンモダナイゼーション
- モダナイゼーションの成功/失敗事例
- モダナイゼーション 意思決定/初期準備のご支援
- お客様と共に歩む未来へ

オープニング動画

Modernization

Leap Now

さあ、今こそ飛び越えよう その先へ

1. 富士通のモダナイゼーションへの取り組み

変革を経営・データ・人材の三位一体で進めなければ**日本が競争力を失う**

「2025年の崖」は終わったのではなく、**AIやDXを阻害する構造問題**として継続

2026年5月26日 日経デジタルフォーラム 経済産業省 木村紘太郎氏 講演をもとに富士通記載
<https://seminar.nikkei.co.jp/e/1049723>

技術的負債の増大

IT予算における
「現行ビジネスの
維持・運営」の比率

76 %

IMD世界デジタル 競争力ランキング2025

日本

30 位

順位	国・地域	前年との変化
1	スイス	+1
2	米国	+2
3	シンガポール	△2
4	香港	+3
5	デンマーク	△2
6	オランダ	+2
7	カナダ	+6
8	スウェーデン	△3
9	アラブ首長国連邦	+2
10	台湾	△1
30	日本	+1

出典：JUAS「企業IT動向調査報告書2025」(2024年度調査)

出所：ジェトロ2025年11月6日付ビジネス短信「2025年版IMD世界デジタル競争力ランキングでスイスが首位に浮上、日本は30位」
<https://www.jetro.go.jp/biznews/2025/11/00822b95d0b1cbf3.html>

メインフレームとともに

1980年に国内トップ 日本の高度成長期を支えた富士通のメインフレーム
お客様とのエコシステム 多くのお客様要望に鍛えられたオンライン・バッチ基盤

メインフレーム全盛

オープン化の波

クラサバからクラウドへ エッジコンピューティング

メインフレーム
国内稼働台数

1958
SE組織の誕生



約6,500台

1992
日本初 サービス有償化

1978
システム開発標準「SDEM」整備

2022
レガシー終息を宣言

お客様
パートナー様
とのコミュニティ

1964
FACOM
ファミリ会

1978
LS研究委員会

Fujitsu User Community

2025

1930s-1950s
人工知能の誕生

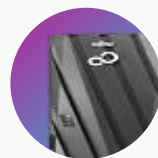
1956-1974
第一次AIブーム
推論・探索

1980-1987
第二次AIブーム
エキスパートシステム、ニューロファジー

2006-
第三次AIブーム
深層学習、LLM

2020-
第四次AIブーム
生成AIの台頭

モダナイゼーションの推進状況



メイン
フレーム



UNIX
サーバ



オフコン
クラウド

販売終息 / 保守終了

30年度 / 35年度

29年度 / 34年度

25年度 / 30年度

25年度末稼働 **社数**

258 社

昨年度比 ▲40社

560 社

昨年度比 ▲113社

678 社

昨年度比 ▲37社 + 126社

25年度末稼働 **台数**

538 台

ピーク比 : 8.2%

4,808 台

ピーク比 : 13.7%

918 VM

撤去日未確定

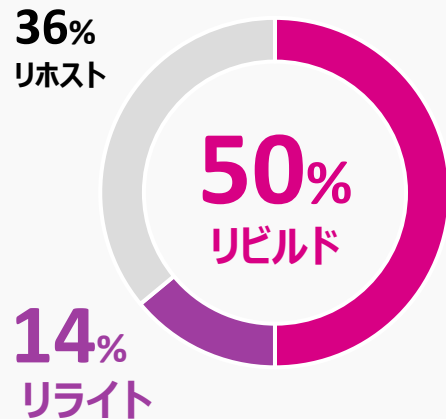
0 社

38 社

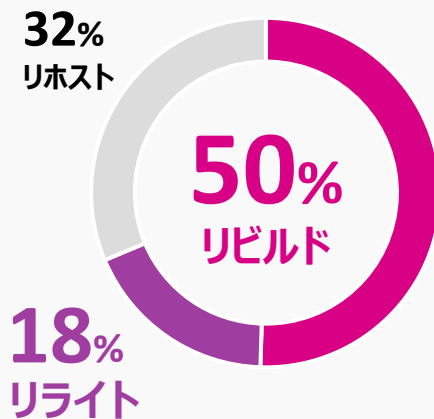
85 社

モダナイ方式

実績（～25年度）



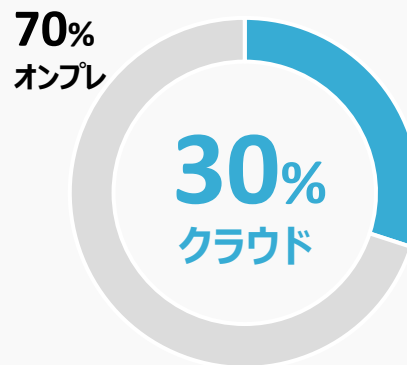
計画（26年度～）



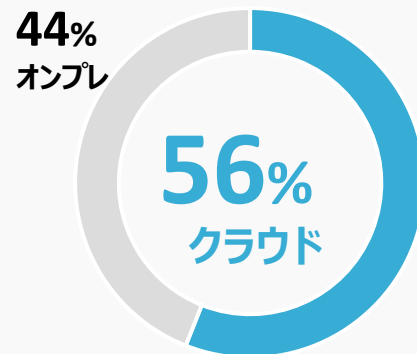
実績も計画も半数がリビルド
今後リライト増の兆しも

移行先

実績（～25年度）



計画（26年度～）



今後クラウドを選択する傾向高い
（半数以上がクラウドへ移行）

2. 富士通が提供する AIドリブンモダナイゼーション

富士通のモダナイゼーション事業への取り組み

モダナイゼーション事業 専任組織

CoEを設立し全社活動



モダナイゼーション ナレッジセンター

モダナイマイスター100名含む、

300名 (FY26・4現在)

モダナイゼーションを加速する活動基盤

事業推進のための各種施策強化

- ・販売パートナー様
専任窓口組織化
- ・エンジニアバンク開始
- ・プロモーション強化
26年-全国地域へのキャラバン展開
- ・上流コンサル（Wayfinders）
- ・モダナイゼーションファイナンス
サービス
- ・市場認知度向上
Googleキーワード検索No.1

レガシーモダナイゼーション市場No.1の実績

他社機モダナイゼーションへの展開

他社機モダナイゼーション実績（FY25：約170件）

既存 ベンダ	I社	H社	業種	製造業/流通業 公共 情報産業、サービス業 出版業 金融業
	N社	M社		
	T社			

レガシーモダナイからAIドリブンモダナイへ

AIドリブン型モダナイに注力

富士通
研究所AI
技術

+

先端LLMの
最適実装

+

富士通の
モダナイ
ナレッジ

生成AIとモダナイゼーション実践知でレガシーシステムの刷新を加速する「Fujitsu AIドリブンモダナイゼーションサービス」を提供開始

Press release



2026 年 07 月 14 日
富士通株式会社

生成 AI とモダナイゼーション実践知でレガシーシステムの刷新を加速する「Fujitsu AI ドリブンモダナイゼーションサービス」を提供開始

当社は、企業や組織の持続的な成長を支援するため、長年のシステムインテグレーションで培ったモダナイゼーションの実践知と生成 AI を統合した「Fujitsu AI ドリブンモダナイゼーションサービス」を、2026 年 7 月 14 日より日本国内で提供開始します。本サービスは、マルチ AI と専門エンジニアの協力を活用し、リプレイス/リファクタリングを中心としたモダナイゼーションの自動化・最適化を実現します。これにより、移行期間を約 40%短縮し、お客様の高度なモダナイゼーションを支援します。

近年、企業におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）、および AI トランスフォーメーション（XO）の加速に伴い、競争力の強化と高度化への高度な対応に向けて、その基盤となるレガシーシステムのモダナイゼーションは喫緊の課題となっています。特に、法改正が促される金融・公共・医療分野、複雑な業務管理が求められる製造業・流通業などでは、長年の業務ノウハウがレガシーシステムに蓄積されています。

これらの課題に対し、本サービスは、当社が開発した AI プラットフォーム「Fujitsu Kozuchi」や大規模言語モデル（Takane）（注 1）に加え、Anthropic PBC 社（注 2）（以下、Anthropic）の「Claude」や OpenAI 社（注 3）（以下、OpenAI）の「GPT」をはじめとした最先端 AI 技術と、レガシー技術に精通した当社の専門エンジニアであるモダナイゼーションマイスターの実践知を統合することで、スピーディーかつ高品質なモダナイゼーションを実現し、お客様の高度なビジネス変革を支援します。

当社は、本サービスの提供を通じて、様々なお客様におけるデータ活用と業務刷新を加速するとともに、データに基づく高度な経営判断の実現に貢献していきます。

<本サービスの特徴>

1. AI による自動化でモダナイゼーションを加速

モダナイゼーションを実現する中核情報として、対象レガシー資産の各種情報を AI が徹底的に分析し、AI-Ready な構造化データとして一元的に管理する独自 AI テクノロジーを実装、工程ごとの難易度がちな判断基準を統一することで、手戻りや品質のばらつきを抑制します。さらに既存システムの資産価値を維持しながら、将来的な拡張にも柔軟な対応を可能にします。

また、モダナイゼーションの自動化に特化して独自に開発した AI エージェントによるオーケストレーション制御とタスク割当制御、言語の交換・繰返を自動化するバーネスエンジニアリングや、変換ルールを継続的に改善するプラグインエンジニアリングを活用することで、大規模かつ高率な変換を実現します。さらに、複雑な機械変換ではなく、オブジェクト指向に基づく保守性・拡張性の高い Java アプリケーションへの移行を可能にします。

1 of 3 > 情報開示のお願い（注1）（注2） 044-754-3338（国内） 044-754-3338（海外） 027-754-

加えて、Human-in-the-loop（人が介在する仕組み）による最終判断・補完を行うことで、品質の一貫性確保とリスク軽減を両立します。これにより、大規模かつ複雑なモダナイゼーションを実現するとともに、工程期間を約 40%短縮することが可能です。

2. 複数 AI を最適活用するマルチ AI 型モダナイゼーションお客様 DX を推進

当社開発の AI プラットフォーム「Fujitsu Kozuchi」や大規模言語モデル「Takane」を中核に、複数の AI エージェントが連携して業務を遂行し、自律して学習する。自己進化でマルチ AI エージェント技術を実装します。

また、当社の開発技術に加え、Anthropic の「Claude」や OpenAI の「GPT」をはじめとした世界最先端の AI 技術も積極的に活用していきます。

これらの複数の AI をお客様の業務やプログラム特性、セキュリティ水準に応じて柔軟に組み合わせ、トランスフォーメーションサービスとして提供します。これにより、お客様は日々蓄積に蓄化する AI 技術の最新な選択や活用機会を要請することなく、基幹投資や RnI（Return On Investment）の観点から本業注力すべき業務の刷新に集中でき、高度なモダナイゼーションを推進できます。

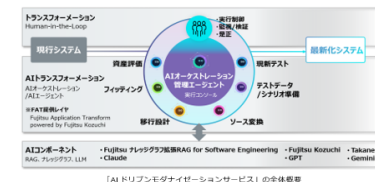
3. 当社の独自ナレッジを学習した専用 AI エージェントで高度・高精度なモダナイゼーションを実現

当社が長年蓄積してきた数千規模のプロジェクト実績や成功・失敗事例などをナレッジとして蓄積化およびデジタル化し、これらの知見を専用 AI エージェントに学習させています。これにより、ナレッジエンジニアの経験が継承されているモダナイゼーションにおいても、経験と勘察に頼られることなく、高い再現性・信頼性・確実性を備えた日本発のモダナイゼーションを実現し、その価値を加速します。

4. お客様自身での AI 活用を支援する自動化サービス基盤を順次提供

当社は、モダナイ AI 基盤サービスの第一歩として、設計書自動生成サービス「Fujitsu Application Transform powered by Fujitsu Kozuchi」を 2026 年 3 月より提供開始しています。今後はさらに提供開始する「Fujitsu AI ドリブンモダナイゼーションサービス」は、当社が最新の AI 技術を最速に選択・採用し、お客様にトランスフォーメーションサービスとして提供するモダナイゼーション特化サービスです。本サービスの実践知を最大限活用し、お客様自身がモダナイゼーションを実行するための AI サービス基盤を順次提供していきます。

今後も本サービスの提供を通じて、お客様のモダナイゼーションのさらなる加速と持続的な変革を支援していきます。

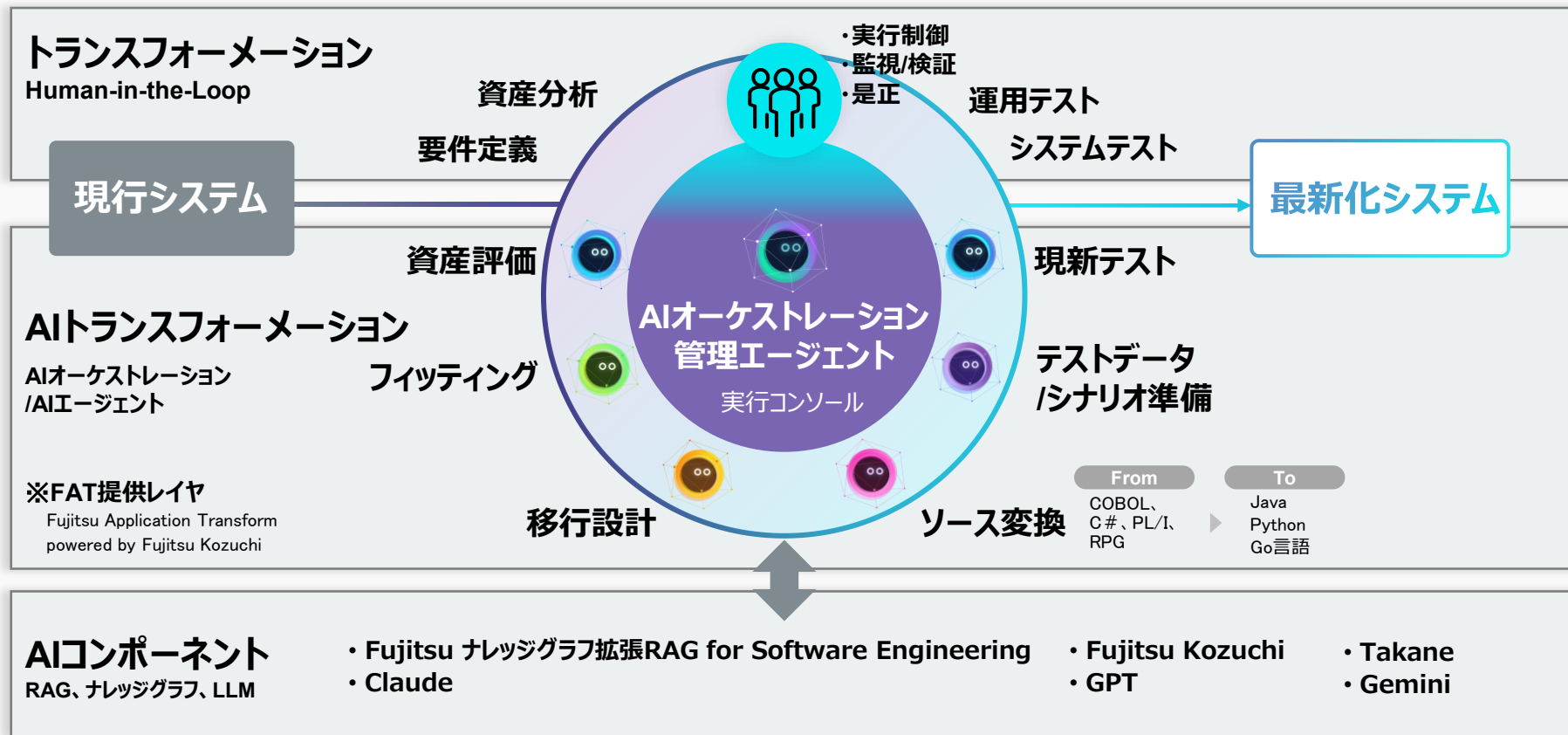


「AI ドリブンモダナイゼーションサービス」の全体概要

2 of 3 > 情報開示のお願い（注1）（注2） 044-754-3338（国内） 044-754-3338（海外） 027-754-

メディア掲載 ●新聞：2社 ●Web：12社（日経電子版、日経クロステック、ZDNet等）

富士通AIドリブンモダナイゼーションとは



AIを活用したモダナイゼーションに対する市場の反応



AI実装によるリライトオフリング

	From/インプット	To/アウトプット	仕様/特長
PROGRESSION	COBOL	-Java (COBOLライク)	移行先マルチ対応 実績60社
BluAge	COBOL PL/I	-Java	AWS向けに最適化 実績110社
New AIドリブンモダナ イリライト オフリング	Type1	COBOL C # PL/I RPG	現ソースプログラムから変換
	Type2		・現ソースから設計書を復元 ・リバースされた設計書からソース変換

リライトオフリングの効果 Type 1

【富士通受発注システム先行事例】

- ・ 現行ソースプログラムをインプットに、新プログラムを自動生成
- ・ COBOLからPure-Javaへの変換で従来工期比80%削減

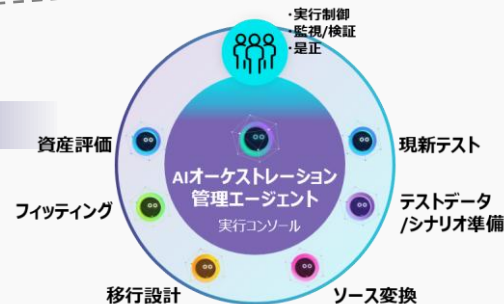
富士通
標準開発工数

設計・製造・テスト
12.5日

AIドリブンモダナイ
Type1

2.5日

80%削減



リライトオフリングの効果 Type 2

【S M B C 日興証券様向け先行事例】

- 設計書リバーズで復元された日本語での設計書を業務観点でレビュー/精査、結果をRAGに反映し、プログラムソースを自動生成
- 現行COBOLからJavaへのプログラムソース生成工期を65%短縮

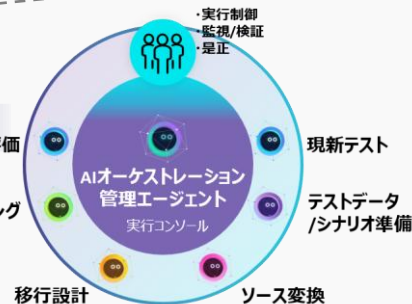
富士通
標準開発工数

設計・製造・テスト
15週間

AIドリブンモダナイ
Type2

5 週間

65%削減



3. モダナイゼーションの成功/失敗事例

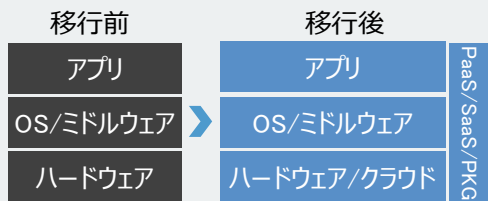
モダナイゼーション手法の選択

既存

変更点

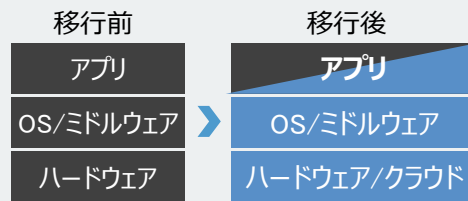
リビルド

競争優位創出



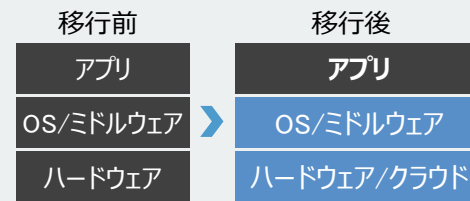
リライト

持続的最適化



リホスト

段階的刷新型 アプリ維持型



成功のポイント

経営の強い決断/関与

ITと業務の推進力

ITの推進力

～経営コミットメントが成功の鍵を握る～

モダナイゼーション起点のDX推進

製造業様

- 建築資材製造・販売、全国約100拠点に販売拠点展開
- 2030年に売上1,000億円^(+30%)を目指す

10年先を見越した生き残りのために



担当者による
職人芸的業務管理



経営サイドから
モノ・データの流が見えない

経営トップ主導でモダナイズ データ活用×AIで業務を劇的に改善

属人業務を排し、AI需給予測とデータ連携へ



効率的需予測 & 計画を実現
(在庫抑制しつつ拠点追加)



AI活用により
構造計算コスト約1億/年削減

モダナイズがDXの第一歩。データとAIで新たなビジネス価値創造

乱立したシステムの数

4,000+

2000年代初頭
全社IT・経営変革PJ開始

2年後
CIO交代により
特命PJ継続機運が減退
推進チーム解散

失敗の本質

- ・ 経営ではなくIT主導のプロジェクト推進
- ・ 全社レベルでのコミュニケーション不足

IT主導

ITにより業務プロセスを変え、
会社のリズムを変え、
事業モデルを変え、
経営を変える



経営主導

経営を変え、
事業モデルを変え、
会社のリズムを変え、
業務プロセスを変え、
そのためにITを変える

富士通の再挑戦：トップ主導の企業変革

富士通の変革「IT企業からDX企業へ」

2019年6月 時田社長就任時宣言



成功事例：リライト

業務部門とIT部門の協働



段階的モダナイゼーション

流通業様

- 長年利用してきた基幹システムの安定稼働が大前提
- メインフレームからクラウドへの移行は必須のテーマ

現行業務インパクトを最小化した モダナイゼーションを実行



メインフレーム前提の
システム継続が難しい状況



大規模刷新はコスト・リスクの
観点で現実的ではない

システム継続の為に、
AWS Blu Ageによるリライト
を選択し変革の土台づくり



開発・移行の工期短縮を実現
総資産の20%の変換検証で75%が完了機能要素



保守性・拡張性の向上
COBOL to Javaにより可読性向上、
最新アーキテクチャにより機能拡張が可能に

段階的かつ現実的な変革の第一歩。DXを見据えて歩みを開始

モダナイゼーションの落とし穴

事例1	当社メインフレームからのオープン化 COBOL to COBOL (リホスト)	▶ プロジェクト 遅延 影響範囲の考慮不足
事例2	当社メインフレームからのオープン化 COBOL to Java (リライト)	▶ プロジェクト 見直し 複雑・ブラックボックス化、業務精査の不足
事例3	他社メインフレームからのオープン化 COBOL to Java (リライト)	▶ プロジェクト 中断 現行資産プログラムの見落とし

経営コミットメント＋万全な初期調査と計画が重要！
～成功と失敗は初動段階で決まる～

4. モダナイゼーション 意思決定/初期準備のご支援

お客様課題

- ・ ブラックボックス仕様、**確認リスク**高くて手を付けられない
- ・ 長期稼働の結果、移行すべき**対象資産・データが不明**
- ・ アプリケーション毎の**移植難易度が不明**

資産分析サービス

稼働資産分析 / ソフトウェア地図分析 /
類似分析 / 移行難易度調査

- ・ 富士通研究所開発技術を実装、600社の実績
- ・ 未稼働・重複資産を明確化
- ・ 断捨離・スリム化により、モダナイコスト低減へ

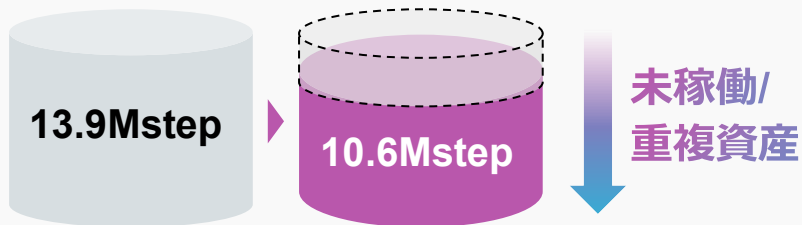
金融業様事例

お客様課題

- ・ アプリ資産の稼働状況が掌握できない
- ・ スリム化によりコスト低減を図りたい

富士通のソリューション

- ・ 未稼働資産/類似資産を抽出
- ・ **25%が不要資産であることが判明**、
断捨離によりモダナイゼーションコスト減実現



お客様課題

- ・ モダナイ投資大きく、**対効果の明確化**に悩んでいる
- ・ **経営/業務部門**のモダナイPJ参画/牽引意識が弱い
- ・ **最適なモダナイ手法**/採用技術がわからない
- ・ 結果として検討に**長期間、先延ばし**が繰り返されている

モダナイゼーションアクションプランニング with Uvance Wayfinders

- ・ 推進上の検討アイテム・課題・阻害要因を類型化
- ・ 類型化FIT & GAP化と、グランドデザイン実施
- ・ ROI明確化、経営向け提案推進

製造業様事例

お客様課題

- 2年間モダナイを独自検討
- 期待価値曖昧、意思決定に苦慮

富士通のソリューション

- ・ 将来価値/シナリオの明確化
- ・ グランドデザイン/実行プラン策定のご支援
- ・ 結果、モダナイゼーション計画の経営合意へ

[illegible][illegible]

お客様課題

- 現行設計書が不在
- 手元に残っているが、稼働ソースとの一致/整合が不明
- プログラムソースの一部が喪失

設計書リバーサービス Missing Source復元サービス

- 富士通研究所のAI技術を実装
- 人が理解できるに日本語表記での設計書を復元
- レガシー稼働顧客の8割で消失するプログラムソースを独自技術で復元

通信業様事例

お客様課題

- 現行設計書が不在、計画ができない
- 業務と連動した設計書を確認したい

富士通のソリューション

- プログラムソースから設計書を復元
- 日本語表記による正確な業務確認

一般的なAIによる設計書自動生成	Fujitsu Kozuchi 適用時
##処理概要 このプログラムは、固定長形式の入力ファイルを読み込み、各レコードについて特定の条件に基づいて計算を行い、結果を固定長形式の出力ファイルに書き込む。特定の条件には、フィールドの値に基づく、動的な計算や定義済み定数の適用が含まれる。 ##入力レコードのスキーマ (項目名) - a4: CHAR(4) - a5: CHAR(20) - a6: DEC FIXED(7) - a7: CHAR(1) - a8: CHAR(1) - a9: CHAR(2)	##処理概要: このプログラムは、従業員の入力レコードを読み込み、特定の条件に基づいて計算を行い、結果を出力レコードに書き込む。計算には、従業員の役職や特定のスコアが考慮される。 ##入力レコードのスキーマ (項目名): - 従業員番号 (a4) - 名前 (a5) - 基本給 (a6) - 種類1 (a7) - 種類2 (a8) - コード (a9)

5. お客様と共に歩む未来へ

モダナイゼーションは次のステップへ

2026年5月28日中長期経営ビジョン2035より

モダナイゼーション

FUJITSU

自社モダナイで培った知見、人材 (モダナイゼーションマイスター)、
およびツール(Fujitsu Application Transform Powered by Kozuchi含む) を
基盤として他社領域・AIネイティブ領域へ展開

更新 から 価値創出基盤 へ

創発型モダナイゼーション

Modernization for AI

- ・ AIが業務を実行する前提への転換
- ・ システムが自律的に最適化・進化

制約対応型モダナイゼーション

Legacy Modernization

- ・ レガシー機器からの脱却
- ・ EOL対応
- ・ オンクラウドへの移行
- ・ 2025年度他社市場攻略実績



**富士通×AIでモダナイゼーションを
イノベーションの起点に
お客様と共に未来を創造します**

26,277

1,663

1954

2026 2030

Thank you

モダナイゼーションに関するご相談・お問合せは
こちらにお願い致します

モダナイゼーションイベント事務局

・e-mail : contact-fjip-moder@cs.jp.fujitsu.com